

定義		レベル					
		レベル毎の定義					
		I	II	III	IV	V	
		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	
1・看護の核となる実践能力	【1.ニーズをとらえる力】 対象者をとらえ、判断し、その人に適した方略を選択する	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
		【行動目標】	I.1.1.1□助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる I.1.1.2□ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	II.1.1.1□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる II.1.1.2□得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	III.1.1.1□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる III.1.1.2□得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	IV.1.1.1□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる IV.1.1.2□意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	V.1.1.1□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる V.1.1.2□ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	【2.ケアする力】 ケアの実施・評価を行う(PDCAサイクルや看護過程の展開)	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】	I.1.2.1□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる I.1.2.2□指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる I.1.2.3□看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	II.1.2.1□ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる II.1.2.2□ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる II.1.2.3□ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	III.1.2.1□ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる III.1.2.2□ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる III.1.2.3□ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる	IV.1.2.1□ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる IV.1.2.2□幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	V.1.2.1□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる V.1.2.2□複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
【3.協働する力】 ケアの受け手を中心に、情報やデータを多職種間で共有し、ケアの方向性を検討・連携する	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす	
	【行動目標】	I.1.3.1□助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる I.1.3.2□助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる I.1.3.3□助言を受けながらケアに必要なと判断した情報を関係者から収集することができる I.1.3.4□ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる I.1.3.5□連絡・報告・相談ができる	II.1.3.1□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる II.1.3.2□関係者と密にコミュニケーションを取ることができる II.1.3.3□看護の展開に必要な関係者を特定できる II.1.3.4□看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	III.1.3.1□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる III.1.3.2□ケアの受け手とケアについて意見交換できる III.1.3.3□積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	IV.1.3.1□ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる IV.1.3.2□多職種間の連携が機能するように調整できる IV.1.3.3□多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	V.1.3.1□複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる V.1.3.2□多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる V.1.3.3□関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる V.1.3.4□目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	
【4.意思決定を支える力】 対象者が立ち会う場面(治療・エンドオブステージ等)においてその人らしい選択ができるための意思決定を支える	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	
	【行動目標】	I.1.4.1□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	II.1.4.1□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる II.1.4.2□確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	III.1.4.1□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる III.1.4.2□ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる III.1.4.3□ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	IV.1.4.1□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	V.1.4.1□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる V.1.4.2□法のおよび文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	

定義		レベル		I	II	III	IV	V
		レベル毎の定義		所属部署で割り当てられたルーティンの作業を担当する。看護チームでは自己の役割を理解し、チームメンバーの一員として行動する	リーダーシップを学びながら所属部署で実地指導者としての役割や、係のリーダーとしての役割を遂行する。看護チームでは自立してメンバーシップを発揮する	看護部の委員会活動や所属部署での教育・学生指導などの役割を担い、看護チームではリーダーシップを発揮する	看護部や組織から求められる役割を認識し、チーム医療を推進する。所属部署の目標達成に向けたマネジメント力を発揮する。	看護部や病院から求められる役割を認識し、チームの要として創造的なマネジメント力を発揮する。
2・組織的役割遂行能力	チーム・所属・組織の中の役割を認識し、専門職として責任を果たすために安全性と経済性を考慮した職務遂行能力	【1.マネジメントする力】 コミュニケーションを図り、良好な人間関係を築く。お互いを尊重、信頼し、チームや組織の目標を達成する	【レベル毎の目標】	チームメンバーとして行動する	部署運営に協力する	部署運営においてメンバーに働きかける	より良い部署運営のために、メンバー間を調整する	より良い部署運営のために中心となってメンバーの活力を促す
			【行動目標】	I.2.1.1□自分の意見を持ち、それを説明できる I.2.1.2□素直な態度で助言を聞くことができる I.2.1.3□チームに関心を持ち、チームメンバーとして協力できる	II.2.1.1□自分の意見を伝え、相手の意見を聞くことができる II.2.1.2□部署運営に必要な情報をメンバー間で共有できる II.2.1.3□自身の業務計画に沿って実施できる II.2.1.4□部署の目標を理解し、自分にまかせられた役割を意識し、与えられた役割行動ができる	III.2.1.1□メンバーに働きかけ、意見交換ができる III.2.1.2□メンバーに関心を向け、適切な対処ができる III.2.1.3□部署内の業務計画に沿って進められるよう調整する III.2.1.4□日々の実践場面において部署目標をメンバーに説明できる	IV.2.1.1□相手の価値観を尊重し、思いや考えを共感的に理解することができる IV.2.4.2□多部門と良好なコミュニケーションをとり、調整することができる IV.2.4.3□部署活動をスケジュールに沿って効率的に実施できるようメンバー間の協力体制を作ることができる IV.2.4.4□上司の方針や部署の目標を理解してメンバーに部署目標目標を浸透させることができる IV.2.4.5□部署目標達成に向けてメンバーの目標の進捗状態を確認し、必要に応じ支援ができる	V.2.1.1□相手の価値観を尊重し、思いや考えを共感的に理解することができる V.2.1.2□多部門の利害も理解しながら交渉できる V.2.1.3□部署の活動をスケジュールに沿って効率的に実施できるよう、多職種間の協力体制を作ることができる V.2.1.4□目標達成のために方向性を示し、メンバーを動機付けして相乗効果を引き出すよう支援できる
		【2.教養育む力】 さまざまな場面で学びの機会と捉え、互いに認め合い、ともに成長する	【レベル毎の目標】	自己の知識や考えをメンバーに伝える	自己の知識や考えをメンバーに伝え共有する	メンバーが必要とする知識と学びの場を提供する	学習課題に合わせた学びの場を提供する	学習課題を把握し、効果的な学びの場を提供する
			【行動目標】	I.2.2.1□支援を受けながら、学生指導など後輩を育成する機会を引き受けることができる I.2.2.2□自分が得た知識や考えをわかりやすく他者に伝えることができる	II.2.2.1□実地指導者として教育的支援ができる II.2.2.2□他者の考えや知識、行動を尊重し、共に学びあうことができる II.2.2.3□メンバーが理解できるまで丁寧に説明できる	III.2.2.1□メンバーの実践力を把握し、業務を割り当て、教育的支援ができる III.2.2.2□日々のカンファレンスなどの機会を捉え、互いに学びあう場を設定できる III.2.2.3□他者の能力や行動の優れている点、課題に気づき、相手に効果的に伝えることができる	IV.2.2.1□経験学習を促進する場を意図的に作り出し、その結果を効果的にフィードバックできる IV.2.2.2□学習の場で参加者の活性化や協働が促進できるようファシリテートできる IV.2.2.3□メンバーのキャリア開発のための支援ができる	V.2.2.1□場を選ばず、短期的・長期的に経験学習を促進する場を設定できる V.2.2.2□学習の場で組織や参加者の活性化、協働が促進できるようファシリテートできる V.2.2.3□メンバーのキャリア開発のための継続的な支援ができる
	【3.想像し改善する力】 現状に満足せず、先取的に課題を捉え、人や組織を巻き込み、柔軟に改善・変革する	【レベル毎の目標】	支援を受けて改善策を実践する	改善策を理解し実践する	改善策を提案し実践する	メンバーを巻き込み改善する	権限移譲の下、変革に取り組む	
	【行動目標】	I.2.3.1□起こっている問題について説明を受け理解できる I.2.3.2□指示された改善策について支援を受けて実践できる	II.2.3.1□起こっている問題と要因について理解できる II.2.3.2□改善策の意図を理解し実践できる	III.2.3.1□起こっている問題に対して現状の把握ができる III.2.3.2□具体的な改善策・アイデアが提案できる III.2.3.3□改善策を実践し、評価できる	IV.2.3.1□潜在的な現場の問題に気づき、データ収集・分析を行い、問題提起できる IV.2.3.2□改善策を立て計画的に実践できる IV.2.3.3□メンバーと共に多角的に評価できる	V.2.3.1□先取的な課題を捉え問題提起できる V.2.3.2□取り組みの方法を企画し、人や組織を巻き込みながら実践できる V.2.3.3□PDCAサイクルを展開し実践できる		
	【4.厚生連職員として行動し、地域に貢献する力】 厚生連理念に則り、社会的規範を遵守し、高い倫理観を持って行動をする。また、地域の特性を理解し、地域活動に主体的に参加する	【レベル毎の目標】	厚生連病院として、社会的信用の重要性を認識し、社会規範や倫理と照らして行動ができる	厚生連病院として、社会・組織貢献を意識し、関連する活動に参加できる。倫理的課題に気づき報告ができる	厚生連病院として、社会・組織貢献のために関連する活動支援ができる。倫理的課題に気づき対応ができる	厚生連病院として、社会・組織貢献のために関連する活動企画に関わる。倫理的課題についての周知、改善に向けた対応ができる	厚生連病院として、社会・組織貢献のために関連する活動企画に主体的に関わり、役割発揮できる。倫理的課題についての周知、改善に向けた対応を示し、組織的対応ができる	
	【行動目標】	I.2.5.1□厚生連の概要を理解し規範に沿って行動できる I.2.5.2□地域の特性、地域における自己の役割を理解し行動できる I.2.5.3□基本的な接遇技術を理解し、行動できる	II.2.5.1□厚生連、病院で行う研修、地域活動に参加し、役割行動できる II.2.5.2□服務規律に則り、規範に反する他者には毅然と意見を伝える II.2.5.3□倫理的課題が発生した場合、速やかに報告できる	III.2.5.1□厚生連、病院で行う研修、地域活動に主体的に参加し、役割行動ができる III.2.5.2□服務規律に則り、規範に反する他者には毅然と意見を伝え、理解を求める III.2.5.3□倫理的課題を常に意識して気づき、メンバーへの問題提起ができる	IV.2.5.1□厚生連、病院で行う研修、地域活動の企画運営に関わり、役割行動ができる IV.2.5.2□服務規律に則り、規範に反する他者には毅然と意見を伝え、支援の立場に関わる IV.2.5.3□倫理的課題を常に意識して気づき、解決に向けた対応ができる	V.2.5.1□JA、厚生連、病院で行う研修、地域活動の企画運営に関わり、組織的役割行動ができる V.2.5.2□服務規律遵守のために周知徹底を図り、組織風土の改善に努める V.2.5.3□倫理的課題を明確に示し、改善に向けた提案、組織的対応行動ができる		

		レベル	I	II	III	IV	V
定義		レベル毎の定義	自己の課題を発見し、自主的な学習に取り組む。ストレスと向き合い、助言を得て前向きに考える。自己の行動・出来事を振り返り意味づける	自己課題達成に向けて、学習活動を展開し、看護実践に取り組む。ストレスがかかっても冷静に対応し、また、実践を振り返り意味づける	長期展望に立ち、自己の学習活動に積極的に取り組む。常に冷静な議論や対応を行い、また実践を振り返り改善に繋げる	看護の専門性を高め、組織運営に活用する。困難な状況でも冷静な議論や対応を行い、また、実践を多様な視点から振り返り改善に繋げる	看護の質を追求し、組織運営に活用する。あらゆる場面でも冷静に働きかけ、また実践を多様な視点から振り返り、より良い将来を作る行動に繋げる
3・自己教育研究能力	常に個人の責任として継続学習による能力の維持・開発に努める能力	【1.学び続ける力】 専門職として、自らの責任で継続的・積極的に自己の能力開発に取り組み、自己実現を図る	【レベル毎の目標】 専門職としての学び方を身につける	主体的に学習活動に取り組む	キャリアプランニングに沿って学習活動に取り組む	キャリアプランニングに沿って学習を継続する	キャリアプランニングに沿って学習を継続すると共に他者のキャリアマネジメントを行う
		【行動目標】	I.3.1.1□助言を得て学習方法が理解できる I.3.1.2□部署で必要な知識・技術を主体的に学習できる I.3.1.3□自己評価を正しく行える	II.3.1.1□他者からの知識・行動から学ぶことができる II.3.1.2□関連部署や部門の知識を主体的に学習できる II.3.1.3□自己の看護を研究的視点から振り返ることができる II.3.1.4□学んだ知識を実践できる	III.3.1.1□自己の課題を明確にし、必要な学習環境を整えることができる III.3.1.2□研究的視点を持ち、既存の研究成果から探究することができる	IV.3.1.1□キャリアプランニングに沿って計画的に自己研さんに取り組むことができる IV.3.1.2□主体的に看護研究に取り組み、まとめることができる	V.3.1.1□キャリアプランニングに沿って多角的な視点で自己研さんに取り組むだけでなく、他者のキャリアマネジメントを行い、支援する V.3.1.2□看護研究に取り組むだけでなく、支援者として関わり、看護の質向上に貢献できる
		【2.セルフコントロールする力】 ストレスを感じるような場面であっても感情をコントロールし、前向きに捉えエネルギーとする。また、仕事と生活の調和を保ち、自己のストレスマネジメントをうまく機能させる	【レベル毎の目標】 自己の感情を自覚する	自己の感情をコントロールする	安定した感情で対応する	平常心を保ち前向きに対応する	平常心を保ち、建設的に対応する
	【行動目標】	I.3.2.1□自己の感情に気づき、衝動的で不適切な行動を抑えることができる I.3.2.2□仕事と生活の調和を考え行動し、困難な場合は相談できる	II.3.2.1□ストレスがかかる状況でも常に感情的な行動を抑えることができる II.3.2.2□仕事と生活の調和を図り、困難な場合の対処ができる	III.3.2.1□ストレスを感じても感情をコントロールし対応できる III.3.2.2□仕事と生活の調和を図るために役割変化に自ら順応し、行動できる	IV.3.2.1□ストレスを感じる状況であっても感情をコントロールし、役割行動がとれる IV.3.2.2□役割変化に順応し、自分が取るべき行動や姿勢が安定的に実施できる	V.3.2.1□ストレスを感じる状況であっても感情をコントロールし、部署、部門に対して必要な組織的役割行動がとれる V.3.2.2□役割変化に前向きに順応し、自分が取るべき行動や姿勢が安定的に実施できる	
	【3.内省する力】 常に実践を振り返り、それを過去の経験や理論と連動させ、意味づけることにより、新しい知識と統合して成長する	【レベル毎の目標】 自己の行動を振り返り意味づける	自己の実践を振り返り意味づける	自己の実践を振り返り、行動変容に繋げる	実践を多様な観点から振り返り、行動変容に繋げる	実践を多様な観点から振り返り、組織活動に繋げる	
	【行動目標】	I.3.3.1□助言を得て自己の行動を振り返り、意味づけることができる	II.3.3.1□自ら自己の行動を振り返り、意味づけることができる II.3.3.2□振り返りの中から次の実践に活かすことができる	III.3.3.1□実践の中で根拠や理論を用いて常に振り返り、次の実践に活かすことができる III.3.3.2□他者の意見を真摯に受け止め、行動変容に繋げることができる	IV.3.3.1□自ら他者の意見を求め、行動変容できる IV.3.3.2□自ら得た振り返りの結果を部署で共有できる	V.3.3.1□部署の暗黙知を振り返りから分析し、可視化できる V.3.3.2□部署の行動変容に繋げることができる	